2017 年度春セメスター　授業評価結果

1. 実施率

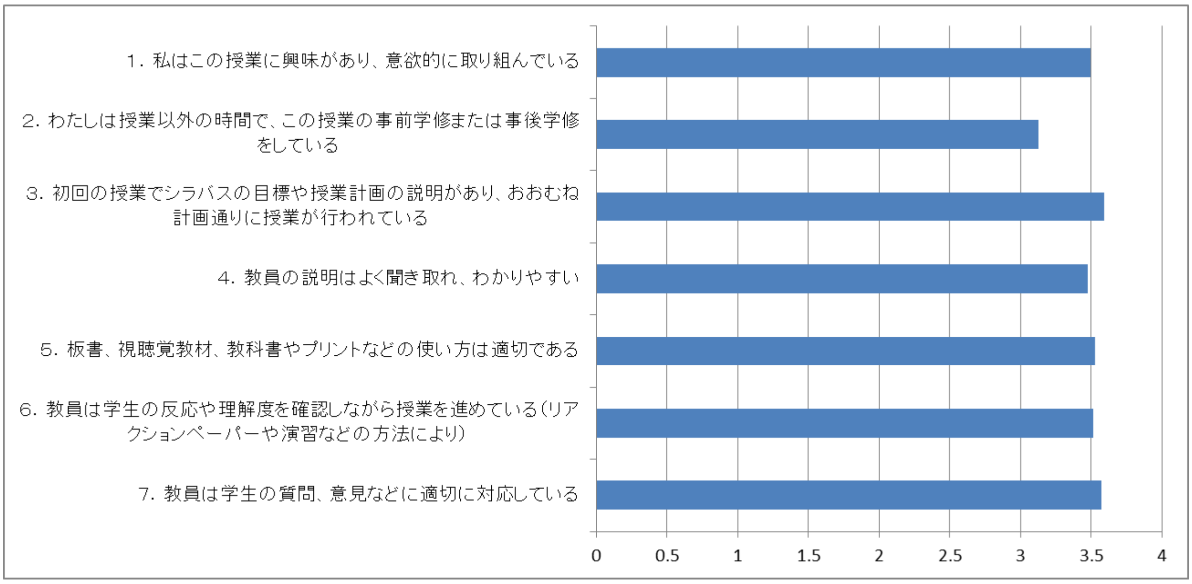
表 1　授業評価実施率

	対象科目数	実施科目数	実施率（16 秋セメ実施率）
共通科目	63	63	100%（100%）
看護学部	45	45	100%（100%）
社会福祉学部	59	59	100%（100%）
リハビリテーション学部	56	56	100%（100%）
計	223	223	100%（100%）

2017 年春セメスターにおける共通科目、看護学部、社会福祉学部およびリハビリテーション学部の授業評価の実施率は，すべて 100%であった。今後も実施率 100%を継続したいと考える。

2. 授業評価結果

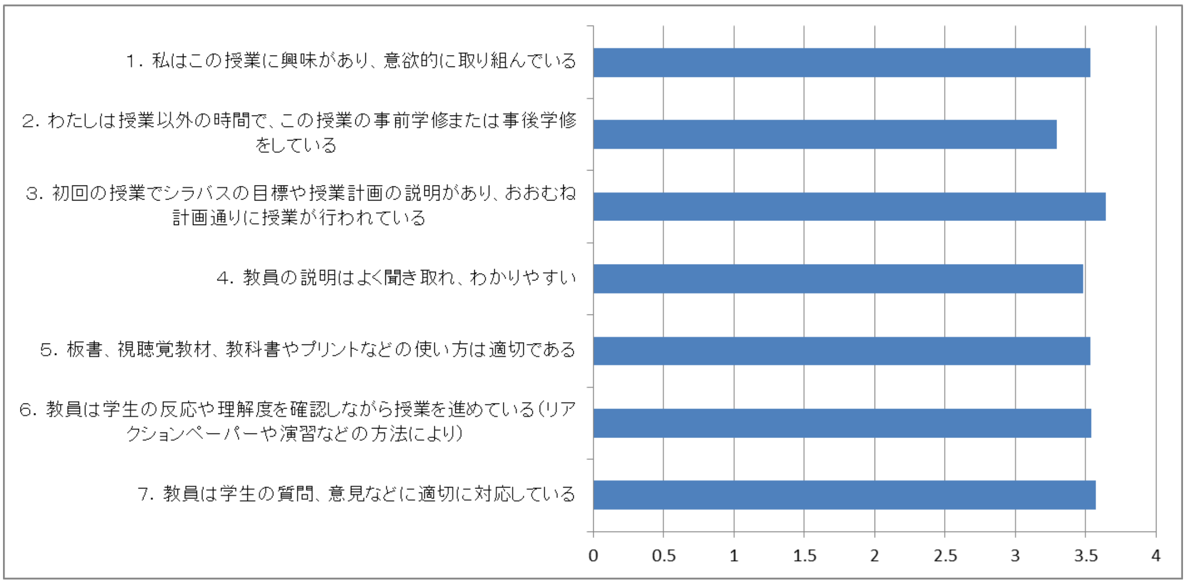
図 1　全科目における質問項目ごとの平均評定値



評価票の評価について「そう思う」（4 点）～「そう思わない」（1 点）と得点を与え、質問項目ごとに平均評定値を算出した（図 1～図 5）

各質問項目の平均評定値は、Q2 を除く 6 項目において 4 点中 3.4 点（85%）以上であった。Q2 の事前・事後学修に関する質問項目の平均評定値は、4 点中 3.0 点（75%）以上と他の質問項目より低いものの 2016 年春セメスターより点数が若干増加していた。
今回も能動的な事前・事後学修を展開する授業の開発と実施が課題となっているものの、徐々にではあるが点数も上がっている。継続的にアクティブラーニングに関する全学 FD 研修会、学部 FD 勉強会を行い、全学の教育力向上を支援していきたい。

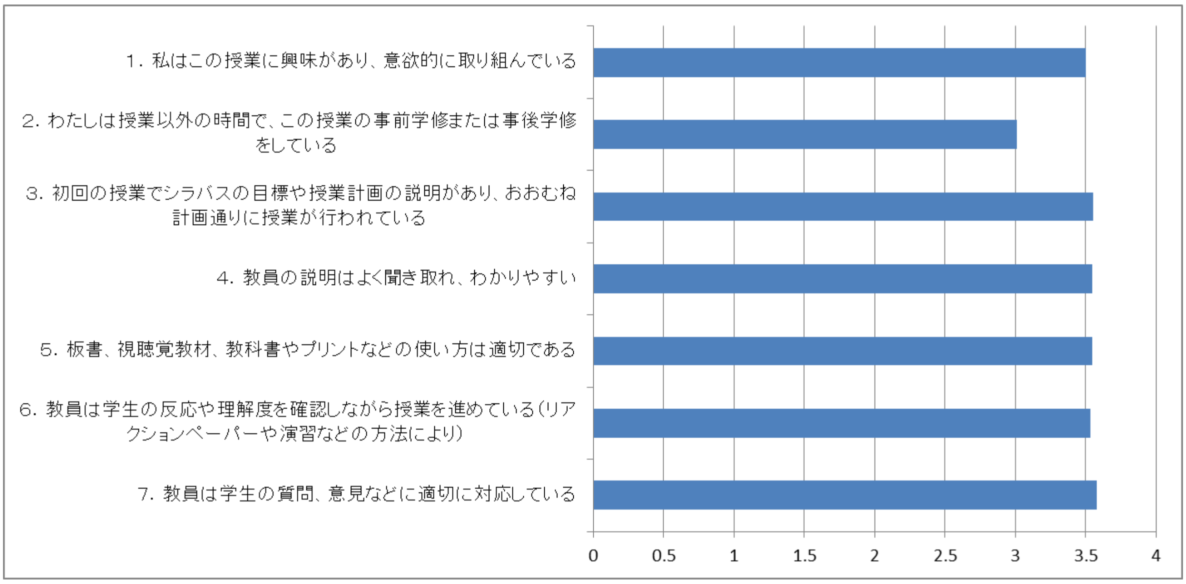
図２　看護学部における質問項目ごとの平均評定値



看護学部 FD 委員会のコメント

2017 年春セメスターは、2016 年春・秋セメスターと比較して、全質問項目について平均評点がわずかであるが上昇した（＋０．０３か～０．１）。全項目の平均評点の順位は、全学・他学部と同様の傾向である。学部の評点では、質問項目 3 の授業計画通りの授業展開（3.64 点）が最も高久、質問項目 2 の事前事後学習への取り組み（3.29 点）が最も低かった。しかし、この質問項目 2 は、前回から平均評点が最も大きく上昇した項目（＋０．１）であった。さらに、学生の授業外自己学修時間調査において学修時間の時間増長の報告からあわせると、学生の主体的な学修の取り組みが少しずつ形成されていると考えられる。項目 2 以外の項目にある教員の丁寧な授業展開や学生対応が学生の良い学習成果につながっていると考えられる。

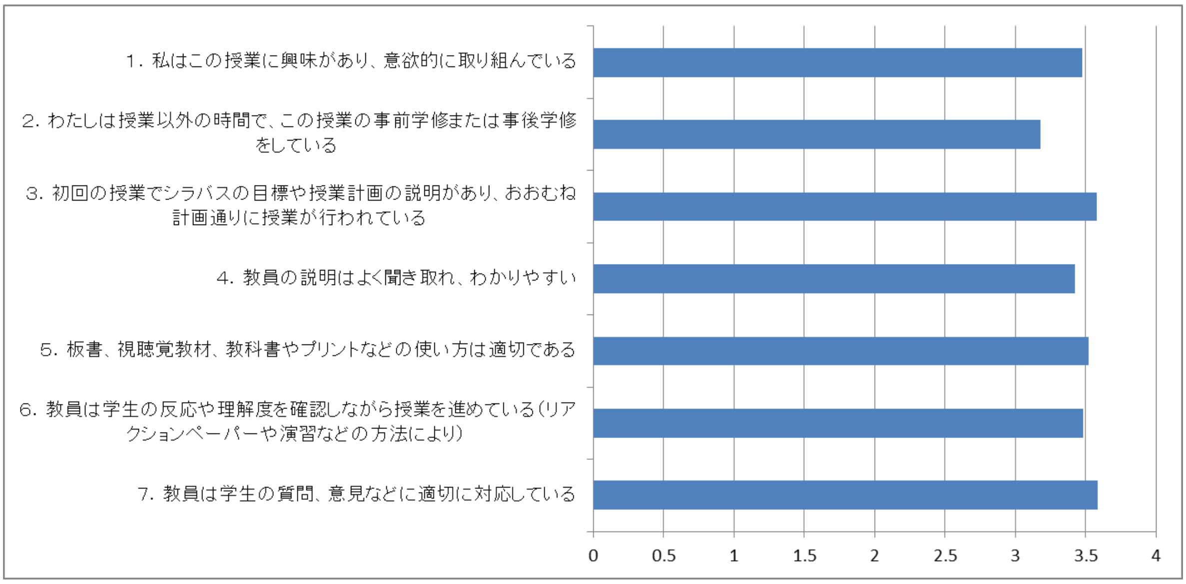
図３　社会福祉学部における質問項目ごとの平均評定値



社会福祉学部 FD 委員会のコメント

全質問に対する評価点が、前期 2016 年度秋セメよりも向上している。また、昨年度春セメと比較しても質問 3 は同じ点数だが、それ以外は全て上回っている。全学の平均点と比した場合、下回るのは質問 2 と 3 のみであり、他の質問については上回っている。授業改善の取組が成果を挙げており、それが既に習慣化していると言える。ただし、前期同様質問 2 は低く、学生の主体性を育む点においては課題がある。この点について学部 FD の課題として取組を強化したい。

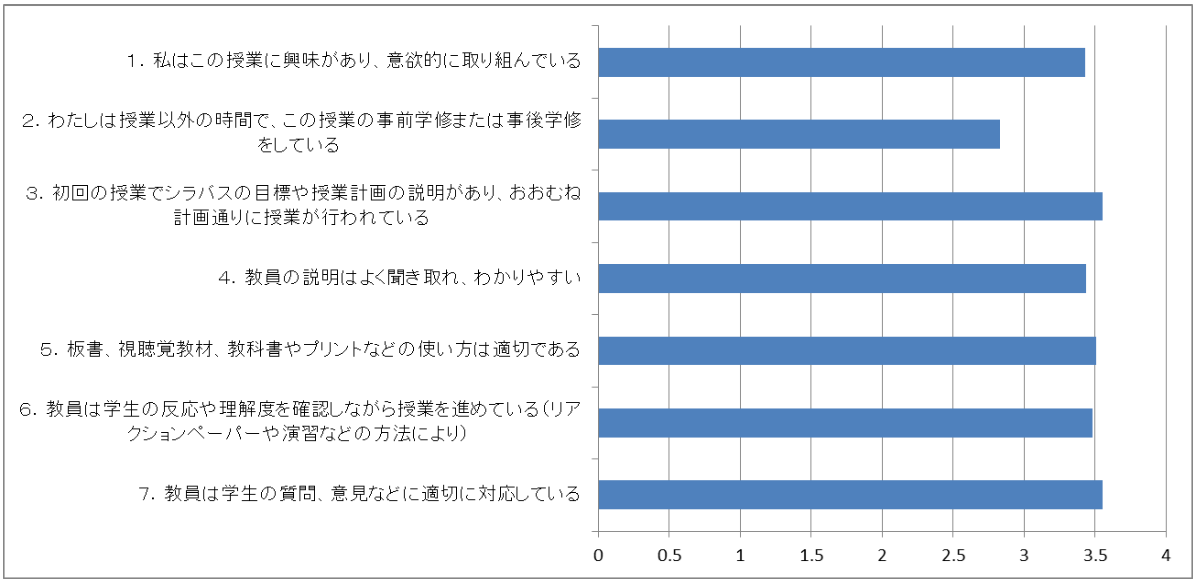
図４　リハビリテーション学部における質問項目ごとの平均評定値



リハビリテーション学部 FD 委員会のコメント

2016 年度秋セメスター時の結果と比較すると、概ね数値が向上していることがわかる。各教員が各々の授業形態に合わせ、学生にとってわかりやすく丁寧な授業づくりに取り組んだ成果であると考える。ほぼすべての質問項目において 3.45 ポイント以上となっており、良好な結果であったと言えるが、Q2 の事前事後学修の実施については、3.18 と若干低値となっている。今年度 FD 活動としてもリーブリック評価、ポートフォリオ、反転事業等の質的な学修到達度理解や自己学修を充実するための手法の導入を推進しているため、今後の改善を期待したい。

図５　教養・共通科目における質問項目ごとの平均評定値



教務部長のコメント

2017 年度春セメスターにおいても対象となる全ての科目について、授業評価が実施されている点は、非常勤講師が多い教養・共通科目においても本学の授業評価の取り組みへのご理解が進んでいると思われる。2016 年度春セメスターの結果と比較すると、ほとんどの項目の評価点がわずかではあるが上昇し、先生方の授業改善・工夫が進んでいると思われる。7 項目中、最も低い評価点の項目は「事前学修・事後学修」であり課題ではあるが、2016 年度春・秋の結果と比較すると徐々に上昇している。引き続き、向上に取り組みたい。